

# 自然と環境のためのスカウティング

## 第33回世界スカウト会議資料（翻訳）

“ 自然研究は、神がこの世界をいかに美しく驚異に満ちたものに作り上げ、あなたを楽しませてくれるかを教えてくれる。...この世界をあなたが生まれたときより、少しでも良くして残すようにしよう ”

ベーデン・パウエル、世界のスカウトへの最後のメッセージ

“ しっかり見つめ、耳を澄ます人たちにとって、森林はすぐに研究室にも、クラブにも、礼拝所にもなる。 ”

ベーデン・パウエル、ローバーリング・ツウ・サクセス

ロンドン・ハーバード・ジェンキンス社、1922年

## 1. 前書き

1989年以来、世界スカウト機構（以下、WOSMと略す）は、スカウティングの環境面の重要性を（世界機構の基本原理には、「共に生きる人間の尊厳と自然界の保全を認め、尊重する社会の発展に参加すること」と述べている）強化する方法について模索してきた。そして、

このことは、関連する以下の二つの問いに答えるものである。

すなわち、

- スカウティングは、環境に対して何ができるか？
- 環境は、スカウティングに対して何をもたらすことができるか？

この間、WOSMの研究開発委員会は大規模な実態調査を実施し、1991年1月にドイツのマルバツハ城で「スカウティングにおける自然と環境」国際会議を開催した。この会議はWOSMにとって、環境教育とその実践に取り組む上での転機となった。1991年9月の世界スカウト委員会は、環境問題をスカウト運動が総力をあげて実施するために、統一的なプログラムが必要であるということで合意した。

「自然と環境のためのスカウティング」と名付けられた3年計画の初年度は、スイスに本部をおくヨハン・ヤコブ財団から助成金を得られた。この計画の初期の結果は、世界スカウト会議の主要な焦点となるであろうし、本運動が意を新たに環境問題に取り組むことになるよう期待している。「自然と環境のためのスカウティング」の第2年度、3年度の計画が完全に実施されるよう、現在、資金の提供先を募っているところである。

## 2. このプログラムの目的と原理

### 2.1 目的

われわれの目的は、スカウティングの教育方法の中で自然が果たしている基本的な部分を確立すること、また、環境と調和する人々という特質を大いに活用して本運動を強化し、現象面と認識の両方のあらゆるレベルで、より一層適切なものにすることである。そうすることで、最も価値ある人的資源を通して、われわれの惑星「地球」の未来に貢献するのである。最も価値ある人的資源、つまり青少年たちは、自らの地域社会における役割や立場に敏感であり、環境の水先案内人としての責任を担うものである。

## 2.2 原理

環境分野におけるWOSMの作業は、以下の原則に基づいて進められる：

- 青少年に対する教育運動のひとつとして、青少年たち自身が環境教育とその実践のあらゆる面で重要な役割を果たさなければならない。このことは、青少年が意思決定に加わることを可能にする道を見つけることを意味し、自分たち自身の考えとイニシアティブを実践することを促し、励ますものである。これはまた、変革のための力のより大きな可能性を認めることを含むものであり、それは上から下へというよりは、下から上へもたらされるもので、その結果はこの「方向転換」を可能にすることを求めている。
- WOSMにとって環境の重要性は、単なるプロジェクトに終わらせてはならないものである。それは、以下に挙げる事柄の推進力となるべきである：
  - 環境を保護する
  - 持続的開発への貢献
  - スカウティングの質の向上
- 環境の重要性は、「単なる環境」としてではなく、何かもっと大きなものとして受け止めるべきである。それは「パンの中のイースト菌」のように、スカウティングのあらゆる面に影響を及ぼすひとつの方法として考えられるべきである。例えば、
  - 青少年のプログラム：
    - スカウティングで青少年が「何を」行なうか [活動]
    - それが「いかに」なされるか [スカウト方法]
    - それがなされた「理由」 [意図]
  - の「総合」である - 成人の指導力：
    - 本運動の成人指導者の全面的な展開、すなわち、青少年のためにもっとよいプログラムと、もっと効率的な組織を作り出すための指導者の実効性、献身、動機付けを向上することである。

- あらゆる面における成長を目指した推進：
  - より多くの（そして異なったタイプの）青少年や指導者を引きつけること、イメージ作り、世界への関心、運営、資金作りなど
- 環境の重要性は、われわれの組織のあらゆる分野に影響を及ぼすものである。それは様式、システム、機構、戦略、技術、スタッフ等に影響を及ぼすし、それらは、スカウティングのための戦略に組み込まれなければならないし、決定的な影響を及ぼすに違いない。

### 3．3年間のプログラム

このプログラムの目的を達成するには、統制と調整のとれた努力、それに3年間にわたる特別財源を確保することが必要である。この3年間の後に、本運動はその成果を同化させて、通常の状況で活動を進められるようにすることにしている。

#### 3．1 世界スカウト環境ネットワーク

この3年間にわたる計画は、ひとつの主要な革新的な推進力を含んでいる。それは、**世界スカウト環境ネットワーク**の設立である。これは、他の新事業とも関連連して進められる。

世界スカウト環境ネットワークは「スカウティングは環境に対して何ができるか?」、そして「環境はスカウティングに対して何をもたらすことができるか?」という問いに対して、まったく若者だけで回答を求めていくもので、これはひとつの試みである。

ネットワークの目標は：

- 青少年から彼らの言うニーズを聞き、彼らの行動計画を支援し、草の根レベルでの小プロジェクトを始めるための資金を提供することで、青少年の環境行動へのイニシアティブを励ます。

- 既にスカウトで活動している多くの者たちに、環境保護の分野で、具体的な地域社会活動で関わりを持たせ、あわせて、環境情報を広めさせるように動員をかける。
- スカウティングの伝統的教育方法、スカウト活動への全体的なアプローチへの方向を定めること、青少年のために健全な人間関係を作り上げるということ、熱意と経験を重んずるパートナーシップで、共に協力して働くことで学ぶ社会という概念、これからのことに再び焦点をあてること。
- 環境に関するプログラム開発のために電子手段という現代的手段をスカウトたちとその国のスカウト連盟、WOSMの間で使うことでアイデアと資源の交換を容易にする。それは、既存の環境ネットワークを通じてスカウティングと、環境分野にかかわる他の人々を結び付けるという利点を持っている。

このネットワークは、あるひとりの若いボランティアが調整役を務め、スカウトのプログラムが伝統的に行なってきた多くの公式的な仕組みを飛び越えて、青少年自身に直接、何が言いたいのかを尋ねるものである。このネットワークは、世界事務局の外に中心点を置く。ネットワークのメンバーたちの連絡を容易にするために、様々な通信手段が用いられ、彼らのプロジェクトの計画実行の一助となっている。小さなものから始まったものであるにもかかわらず、ネットワークが増幅する効果が速やかに本運動全体に大きな影響を与えることが期待されている。

### 3.2 このプログラムのその他の意義

このネットワークで着手し、実行された活動は、この計画の他の側面から支えられている。すなわち、

- **小規模の草の根計画のための“資金”**を確保すること。草の根の計画は世界スカウト環境ネットワークのメンバーが考え、組織し情報を流していく。こうしたプロジェクトは、青少年たち自身が環境問題を解決するのに“全地球的に考え、地方的に行動する”ことができる格好の手段であり、スカウト運動内外の青少年ができることを示すものである。

- 各国スカウト連盟の**青少年プログラムの開発**や**成人指導者支援のための教材**の制作。これらの教材（出版物、訓練セット、視聴覚教材、その他の教育用具）は、自然と環境がスカウティングの方法の中で本質的な部分であることを強調し、その方法をスカウトたちと成人指導者たちの教育と訓練に適用する方法を示唆している。これらについては現在、ジョセフ・コーネルやフランク・オビエといった外部の専門家と協力して開発中である。この2人は共に、WOSMの研究開発委員会が開いた環境会議に参加している。これらの教材は、本運動に配布するものではあるが、外部にも配布してよいものである。
- 特別なセミナーあるいはワークショップを地域や国レベルで組織し、新しい教材がうまく導入され実行されるようにする。そして、経験を共有し、吸収する場となる。
- **普及資料**の開発と配布。この資料は環境の中で、青少年を教育するというスカウティングの役割を強調するものである。視聴覚通信やマスコミの専門家たちと作業を進めること、そして、視聴覚教材の制作、配給を専門としているその他の業者と協力することで、規格品や応用品のパッケージにしたり製作したりして、本運動内外の視聴者が利用できるようにする。こうした資料は、スカウトの環境プログラムの教育過程に役立つとともに、本運動の青少年たちが“自然環境の水先案内人”として関与しようというスカウティングのイメージを高めることになる。
- リオデジャネイロで開かれた**国連環境開発会議（UNCED）**と、1992年初頭にコスタリカで開かれた世界青年フォーラムに参加してWOSMの足場を築く。こうした行事に参加したことは、WOSMにとっては、プログラムに新しい入力をもたらし、本運動が青少年を通して環境行動に関わっていることを政府や非政府組織に示すことになった。そして、このことは青少年と環境の分野で活動する部外の他の個人や組織との接触を広げる上に重要な要因であった。
- 環境分野で活動している**他の組織との連携**を強化する。国連環境計画（UNEP）、世界自然保護基金（WWFインターナショナル）、国際自然保護連合（IUCN）のような組織と、これまでに確立された関係を積極的なものへと推し進めていけば、同じような狙いと目的を持つ国内外の協会や組織との、より緊密な連携が維持される。

こうしたことが、青少年たちの活動をよりよく知らせ、団体間の資源の共有を促進することになる。

- あらゆるレベルでの支援を確保するために、**この問題に関心のある個人**を結集する。われわれの目的を達成するには、本運動の既存の機構とシステムが必要だが、充分ではない。というのは、世界スカウト環境ネットワークの設立に際して、強調されたことは、連盟の運営上の“規則”に拘束されない青少年たちで構成することだったからである。しかしながら、成人指導者の支援に支えられている運動においては、意欲のある人たちをできるだけ多く見つけて、結集すべきである。われわれは、そうした人たちを内外の既存の機構やシステム、本運動の内外で見つけ出せよう。こうした関心の深い個人は本質的には、彼らの個人の積極性、人を引きつける強い個性、新しいアイデアに対する寛容さ、物事を組み立て、人を動かす能力などによって選ばれるべきである。彼らの努力を結集して環境分野における、われわれの指導性を全般的に高揚させるべきである。

#### **4 . 第2回国際会議（1992年 カンデルステッヒ）**

スカウティングにおける自然と環境に関する、もうひとつの国際会議は、1992年10月31日から11月3日までスイスのカンデルステッヒで開催された。第1回目と違って、この2回目の会議には、スカウティングにおける自然と環境の活動に実際に携わっている重要な人たちや、また外部の専門家たちも招かれた。「自然と環境のためのスカウティング」計画の諸活動の達成状況を評価し、本運動が十分なインパクトを生み出す新しい方向付けができるよう実際の活動を確立した。

主な決定事項と諸活動の推薦案を含め、この報告書は、補遺として添付してある。

**会議のまとめ：**

- 1年前にボランティアの青少年が運営を始めた世界スカウト環境ネットワークは強く支持された。そして、それを短期、長期の両方で強化する重要性が強調された。会議ではまた、皆が協力し合って意志決定をし、指導者はスカウト運動内に、リーダーシップの型を促進者としての立場に徹して作り出すことを推進するのに、このネットワークを使うことが提唱された。
- 外部の専門家による2大新出版物（ジョセフ・コーネル著「自然の心への旅」、フランク・オビエ著「地球スカウト」で本プロジェクトの初年度のもの）の研究。両出版物とも現在、編集最終段階であり、間もなく出版される。本会議では、2冊ともスカウティングが青少年に提供する自然と環境重視のプログラムを強化する主要な教材と考えている。
- 新しい方向と資料の導入を指示するために、実行と促進の戦略が確立された。上記の案は、スカウト連盟が完全に使えるにふさわしい支援戦略なしには望むような効果は生み出せないと、会議では考えられた。この戦略には、特に1993年に始まる地方あるいは県で開くセミナーの組織が含まれており、補助文書教材、視聴覚教材、コンピューターを中心とした訓練のような異なった通信手段の開発なども付け加えられている。
- スカウティングの効果的な市場戦略、特に基本的“市場メッセージ”制作の承認。

## **補遺：**

### **第2回自然と環境国際会議の報告**

**スイス・カンデルステッヒ 1992.10.31～11.3**

#### **1. 前書き**

第1回「スカウティングにおける自然と環境に関する会議」は、世界スカウト機構（WOSM）の研究開発委員会の活動の一環として、1991年1月にドイツのマルバッハで開催され、「自然と環境のためのスカウティング」というWOSMの3ヵ年計画の基礎を作った。この計画の核心は、世界スカウト環境ネットワーク（WSEN）の設立で、これに世界中の青少年た



ちが参加するよう求められ、自らの地域社会での環境活動の経験を分かち合うことになった。この計画には、外部の専門家たちによる自然と環境に関する新しい教材の開発も含まれており、この専門家たちは、この分野のスカウティングに新鮮な着想をもたらすことができると期待された。

この計画の初年度は、1991年の後半からスタートしたが、それはWOSMの世界プログラム委員会傘下の一組織で、ヨハン・ヤコブ財団からの資金援助を受けた。

初年度の活動は、活動の作業についてより幅広い情報を入力し、後年2年間の活動計画を立てることであったが、これを評価するため、第2回「スカウティングにおける自然と環境に関する国際会議」が、1992年10月31日から11月3日の間、スイスのカンデルステッヒで開催された。24人が参加したが、それは、中心となるボランティア、WSENのメンバー、外部の専門家、WOSMのスタッフたちであった。WOSM5地域（アフリカ、アラブ、アジア太平洋、ヨーロッパ、アメリカ大陸）すべてから、参加者は出ており、参加者たちはこの問題に関する個人的貢献を基礎に選ばれており、個々の国のスカウト連盟を正式に代表するものではなかった。

## 2. カンデルステッヒ会議：その必要性

会議では3項目を出発点とした。すなわち、

- スカウティングにおける自然と環境に関する概念の幅を広げ、深める必要がある。スカウティングの初期には、「スカウティングとは何か」という定義そのものに、自然は基本的な役割を果たしていた。けれどもやがて、自然は「スカウティングは何ができるか」に最も関連のある一連の特別活動、例えば、自然保護に縮小されてしまった。スカウティングにおける、今必要なことは、自然と環境を、人間が自然の一部であるという概念と現代のニーズと現実に合わせてを基礎にすることである。この基本的役割に、戻しかつ必要がある。また、環境と調和した生活をするようになるためには、教育過程に情緒や精神面の要素を強調する必要がある。自然との接触はまた、創造主と触れるひとつの方法となる。

- 成人たちとの強調のもとで青少年は、スカウティングにおける意志決定のあらゆる面に関わる必要がある。スカウティングは、青少年が行動の決定と責任をとる場とすべきである。自然と環境の重要性を高めていくことは、スカウティングを形成していく上に青少年の積極的な参加を実践する理想的な場である。明らかに、事前に決められた役割のない自然環境のもとでは、青少年と成人との間の対話と、青少年が自分たちに関連することへの意志決定に積極的に参加する理想的な場となる。経験のレベル差は、人々が互いに自然の中で時を過ごし、青少年と成人が共に自分たち自身と環境の間に新しい関係を見出していく時、だんだん小さくなる。
- スカウティングのために、より幅広いコミュニケーションの場を開発する必要があり、それは、スカウティングが何であるかをスカウトたちと他の人たちに簡単に率直に説明できる方法である。今日でも、スカウティングは、ユニフォームのような決してスカウティングにとって基本的なものではない要素と結び付けられている。スカウティングの基本（スカウティングの目的・原則と方法）は、多くの人に簡単に伝えられるものではない。自然と環境という強力な要素がおそらくは、スカウティングのために役立つことになりうる、こうした新しいコミュニケーションの場を作る鍵になりうるであろう。

### 3. 会議の結論

- 会議では、スカウティングは自然と環境を本運動の中の基本的かつ中心的な位置に再び構築すべきことを決定した。自然と環境（人間と自然環境の双方を含むものとして定義されている）は、WOSMの戦略的最優先項目の全てに重要な要素として織り込まれるべきである。特に、青少年のための良質なプログラムの継続的開発、成人ボランティアの人材の効果的な運用、本運動の拡大などである。
- 会議では、世界スカウト環境ネットワーク（WSEN）の設立案を承認し、このネットワークとより大きなネットワーク作りが、WOSMが“組織”の性格を薄め、“運動”の性格を強くしのばすこ戸に基本的重要性があることを強調した。WSENは青

少年が、世界中の仲間たちといっしょに作業できる特別な機会を提供できる。現代の通信技術は、そういう通信の障壁を劇的に減少し、青少年の行動への動機を増大する。

- 会議では、合議により意志を決定し、指導者を促進者とすることを基礎とする型の指導力を形成することを認め、こうした人間的思考の形体は、本運動が一層時代に適したものとなることから、結果的に、本運動を強化するということを確認した。会議はまた、ネットワーク作り（WSENを含む）は、本運動の中にこうした形体の指導力を受け入れていくことを容易にし、また、促進することを確認した。ネットワーク作りから、各個人は付加的な価値を生み出し、運動にとって特にふさわしい様々な型の指導力とコミュニケーションができあがってくる。環境ネットワークにおける本運動の指導力の新しい方向付けは、各レベルで要請されるものとなり、それによって、本運動に具体的な価値が生まれてくれば、ネットワークそのものの存在は認知されることになる。会議では、環境教育、地域開発、スカウティングでの奉仕の方向付けとの関係が確認された。人間に焦点を置くことからいって、スカウティングはこの3つを結びつけることができると判断した。会議はまた、WOSMがその枠組みの中で、少女や若い女性たちが社会形成に積極的な役割を果たせるようにする必要性を、特に重視すべきであることを強調した。これは男性、女性の区別なく、全ての青少年の教育という問題に関わりがある。
- 会議では、「自然の心への旅」と「地球スカウト」の出版を通じて、ジョセフ・コーネルとフランク・オビエの両著者が、スカウティングにおける自然と環境に新しい意義付けをしえた功績に感謝した。両著作は、これまでの出版物を補完するものであり、各個人の意識と具体的な行動とを結びつけることによってギャップを埋め、スカウト連盟に価値ある教材を提供している。
- 会議は、われわれの自然と環境へのアプローチをさらに豊かなものにし、スカウティングが教材開発の資源を分かち合い、各国のスカウト連盟の改革を実行させるために、外部の情報源（適切な組織と個人）に目を向け続けることを推奨した。会議は、国連環境計画（UNEP）、世界自然保護基金（WWF）、国際自然保護連合（IUCN）などのような関連組織と協調することを歓迎する。

- 会議は、こうした方向転換と以下に述べる具体的な活動を通して、スカウティングはもっと多くの青年男女を迎え入れ、彼らを少しでも長くこの運動に留ませうと考えている。また、このことは、支援にあたる成人たちをもっと多く引き入れることになる。子のようにすれば、スカウティングは社会により大きなインパクトを及ぼすことになる。

## 4. 行動計画

### 4.1 戦略上の要点

- 1993年3月までに、各国スカウト連盟の運営首脳陣向けに“簡単な説明用小冊子”を発行し、あらゆる戦略的優先項目の上でのスカウティングにおける自然と環境の重要性を紹介し、その位置付けを示す。
- 新しい方向と資源紹介を後押しするため、実行戦略を策定し、運用する。それには1993年9月に開始する地域、または地域内の小区分レベルでのセミナー開催も考慮する。（これに加え、書籍出版物類を補完するため、また訓練用のビデオ、コンピューターを使った訓練、視聴覚機器による教材などがある）
- 1993年7月にバンコックで開催される次回世界スカウト会議の自然と環境面、すなわち、討議する議題、決議案、静的や様々な資料による展示などを計画する。
- 組織とリーダーシップの再定義。
- スカウティングのための効果的な市場戦略の構築、特に基本的な“市場呼びかけ”。簡単なものにしよう！
- 関連する団体との連携を進めながら、それらの団体、個人との協力、連絡体制を強化する。

### 4.2 世界スカウト環境ネットワーク

世界スカウト環境ネットワークは、以下のことを計画している。

- 1993年2月までに、各地域に少なくともひとりの活動的な会員を確保する。

- 1993年5月までに、各地域にいるネットワーク参加者の中から進行中のプロジェクト作業を行なうことを引き受けてくれる者を選定する。
- 1993年8月までに、各メンバーが相互に定期連絡ができるようにする。
- 研究と開発を行ない、適切なネットワーク機構を作り上げる。1993年2月までに可能なモデルの研究、1993年5月までに検討評価、1993年8月までにモデル草案を提出。
- 加えて、その他の長期計画案。それには、各地域にコーディネーターを配置すること、新しいプログラム資料を支えるために訓練資料のオンライン化、世界青少年フォーラム参加者のために青少年間の通信網の設立、効果的な地域規模のネットワークを行なう下部組織を構築する。

#### 4.3 プログラム出版物

- 各国スカウト連盟のために1993年5月までに3冊の新しい出版物を発行する。すなわち、「地球スカウト」「自然の心への旅」それに、スカウティングの自然と環境の重要性を説明するWOSMの補足文書。
- 隊指導者のために、各国スカウト連盟が新しい自然と環境の“教材”を作成することを援助する。
- 各国内、および国際スカウティングの行事を通して、具体的な展示を行なって、新しい意義を広める。

#### 4.4 成人の人材 / 運営

- 各国スカウト連盟での採用に向けて、以下のことを行なう。

-  
成人指導者のための既存の訓練要綱の見直しと再評価。

-  
成人指導者に対する（再）訓練と支援を提供する。理念や概念の変更、新しい意義付け、価値観と心構えの変化、新しい活動の導入、指導力のスタイル、意思決定の過程、ネットワーク作り。

-  
必要に応じて補充人員を確保する。

- “自主性” 確立のためにネットワーク作りを利用する。
- 相互支援のために、あらゆるレベルでの直接的な接触を容易にする。
- 各国スカウト連盟に対して、いかに恩恵を受けるか、何が活用できるかを提示する。

以上